

令和3年度事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、従来通りのウミガメ保全調査活動を遂行した。外部研究者と共同研究を積極的に行うことでウミガメの生態解明や脅威に関する調査研究にも取り組んだ。ザトウクジラ調査に関しては従来調査の他に、個体数や生存率を解明するため修論生を受け入れて、解析に取り組んだ。また、国内地域の大学・研究機関等と共同研究を進め、国内における回遊経路や交流の実態などの生態解明および公表に寄与した。展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校5年生の総合学習事業も継続した。島内外の人をボランティアやインターンとして広く一般から受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

関東沿岸のウミガメ漂着調査は、海洋ゴミの影響調査のほか、死因解明に注力した。普及啓発事業に関して、本年度はオンラインを駆使し、各種講演の他に従来小笠原で実施するプログラムをオンラインで実施する取り組みもおこなった。WebやSNSを利用し、一般の人に対しての情報提供や啓発も継続した。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計6組織で実施した。

国外事業として、インドネシアにおけるウミガメ保全事業を、現地NGOである「インドネシアウミガメ研究センター（YPLI）」をカウンターパートとして継続した。ジャワ海の5カ所の島において、現地住民をレンジャーとして雇用してタイマイとアオウミガメ卵の保全事業やモニタリング調査を継続した。西パプア州では地域住民と協働で、ワルマメディ海岸及びジェン・シュアアップ海岸におけるオサガメのモニタリング調査を実施し、オサガメの減少要因の究明にも取り組んだ。今年度は特にYPLIスタッフの育成に注力した。また、他組織への保全技術指導や知見共有も展開した。

国内において、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:38,528千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 昨年に引き続きコロナ禍で現地渡航が出来ない状況が続いたため、遠隔で活動管理できる体制の構築として、現地カウンターパート職員の育成に注力した。ジャワ海周辺の活動として特に注力したのは、他組織への保全技術指導や知見共有である。これは、活動地以外のウミガメ個体数回復を目指す目的で実施した。タイマイ保全を目的として創設時から継続しているジャワ海の活動は、4島（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）で継続した。プナンブン島では、産卵が多く見られる7月までに活動期間を短縮した。新規常駐スタッフを雇用したところ、海岸の保全状況は良好な結果が得られた。このように前年度に変更した新体制を確立しつつ、島や海岸の状況に合わせて調査方針の変更もおこなった。今年度は、タイマイ3,832巣（前年比+612）とアオウミガメ715巣（前年比+126）分の卵を盗掘から保護し、推定約193,000匹のタイマイと12,400匹のアオウミガメを海に帰すことができた（2021年1月-12月）。また、タイマイ個体群解析のための調査研究も国内外の研究者の協力を得て進めた。西パプア州のジェン・イエッサ地区のワルマメディ海岸の調査に関しては、コロナの影響により実施できなかったが、監視員指導と情報収集のためソロンのYPLI職員を海岸や村に3回派遣した。ソーベバ村とワルマンディ村の長老が昨年続けて亡くなったが半年以上たっても後継者が決まらず、3月にジャカルタの職員を派遣した際に村は立ち入り禁止となっており交渉が出来なかった。今年度のワルマメディ海岸の産卵巣数(1-12月)は328巣と増加した。ジェン・シュアアップ海岸では全体で1390巣(2020年10/16~2021年、10/15)と減少した。夏場(4/16~10/15)の産卵数が減少し、冬場(10/16~翌4/15)の産卵数は2015年以降増加していたが、今年度607巣とやや減少した。夏季の産卵巣数は585巣あり、2021年夏以降パプア大学やWWFが海岸に入れていないため夏季産卵巣数の減少が期待できる。ワルマメディ海岸及びジェン・シュアアップ海岸では、本来の産卵数が近年増加傾向にあり、モニタリング調査を継続する必要がある。

- ・ 地球環境日本基金助成（一部）
- ・ 国際資源評価等推進補助事業（一部）
- ・ Billion Baby Turtle助成事業（一部）

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】ジャワ海周辺（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、スリブ諸島）、西パプア州（ジェン・イエッサ地区、ジェン・シュアアップ地区）

【従事者人員】5人

【対象】ジャワ海周辺地域の住民（50～80名）、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民（1,000人）

2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。外部研究者と共同研究を積極的に行い、卒論生3名、修論生2名の受け入れ、小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ 三井物産環境基金助成事業（一部）

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】7人

【対象】島民（約2,700人）、一般(不特定多数)

3. 関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した（全情報194頭中141頭調査）。昨年度に引き続き、誤食ゴミの定量化や糞に含まれるマイクロプラスチックの分析を実施した（調査対象として小笠原捕殺個体含む）。また、漂着が多い茨城県神栖市での定期訪問調査にも取り組み、同市における漂着原因の解明に取り組んだ。漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク（行政や関係機関、漁業者、団体や個人など）からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか宮城県・島根県・愛知県・大阪府・和歌山県・香川県・福岡県・沖縄県からも寄せられた。ウミガメ死亡漂着場所の位置情報をマッピングサイトで公開し（<https://kamest.elna.or.jp/>）、情報発信を行った。

- ・ 地球環境基金助成（一部）

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県など

【従事者人員】5人

【対象】各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため修論生を受け入れて、解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関とID写真のマッチングを実施し、回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組む、共同研究として学会で発表した。

- ・ イオン環境財団助成事業（一部）

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】3人

【対象】島民（約2,700人）

- 2 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:2,822千円】
1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業
- 【内容】インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター（YPLI）」のスタッフや、YPLIスタッフを通して各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。調査報告書類や助成報告の作成、新規事業を主導してもらう等の作業や、それに対する指導や助言を通して、人材育成の質の向上を目指した。このほか、昨年度より継続して他組織のウミガメ保護に従事する人達へもウミガメに関する情報や知識の共有もおこなった。
- ・ 地球環境日本基金助成（一部）
- 【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日
- 【場所】ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアupp地区）
- 【従事者人員】3人
- 【対象】ジャワ海西部の地域住民（30～50名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20人）
2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業
- 【内容】海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。小笠原父島内では延べ18名の父島在住ボランティアが活動に参加。島外からは延べ45名の受け入れを行った。内、35名が大学生、10名が社会人であった。ボランティアの平均滞在日数は31日。最大133日。最小9日。4月から8月にかけては、夏休みを利用した2～3か月参加の長期滞在者が多かった。10月～3月末までは、2週間以内の比較的短期の、特に春休みシーズンの学生が多かった。
- 【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日
- 【場所】東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市
- 【従事者人員】10人
- 【対象】一般
- 3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:13,568千円】
1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業
- 【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。
- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
 - ・ 小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）
- 【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日
- 【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）
- 【従事者人員】7人
- 【対象】島民及び来島者
2. 教育啓発・エコツアーリズム事業
- 【内容】小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化を両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。
- 【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日
- 【場所】東京都小笠原村父島
- 【従事者人員】6人
- 【対象】一般
3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習
- 【内容】前年より参加継続のヨコハマおもしろ水族館、さとえ学園小学校、学校法人シモヅノ学園（国際動物専門学校）、高齢者介護施設であるオーチャード沼津およびオーチャード開智（ランブラス・キャピタル株式会社）、すみだ水族館、マリホ水族館の計6組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。一部の参加組織に対して、子ガメ短期育成に関連したウミガメ講演をオンラインで行った。
- 【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日
- 【場所】埼玉県、神奈川県、東京都、静岡県、広島県、長野県
- 【従事者人員】9人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebookやtwitter、メールマガジンと連携して広報を行った。

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】11人

【対象】一般

5. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。開催方式はオンラインでの実施が主流であった。また、各種の講演会や学会に出席、および発表を行った。

【日時】令和3年4月（海の・・・展）、6月（ウミガメの生態、南房総の海deウミガメ放流）、6月（おうちでウミガメ放流）、7月（ウミガメは100km沖で恋をする講演）、8月（ウミガメ自由研究オンライン）、10月（漂着イルカ・クジラから見える海の今、ハロウィンウミガメ放流）、12月（日本ウミガメ会議）、令和4年1月（アクションミーティング）、2月（里海博、ボニンのザトウを知る会）、3月（ウミガメ報告会、ウミガメ国際会議）。

【場所】千葉県、オンライン

【従事者人員】11人

【対象】一般

(2) その他の事業

1 物品販売【支出額:3,670千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNAショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担うELNAカレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もアーティストにオリジナルグッズ作りの協力を得て、多彩なグッズ開発・販売をすることができた。

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】20人

【対象】会員及び一般消費者

2. 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業

【内容】小笠原諸島父島において、その数の増加が懸念されており、ウミガメの卵やふ化幼体を捕食する等、ウミガメにも脅威となっている野ネズミを捕獲しその数を調査することで、小笠原海洋センター内の野ネズミの個体数の現状を把握する。同時に、殺鼠剤がアオウミガメにおいて感受性が高いことが示唆されているため、殺鼠剤以外の方法で野ネズミを駆逐する方法を模索する。

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】5人

【対象】一般

3. 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業

【内容】ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設において外部研修者と協働で試験および検証を行う。

【日時】令和3年4月1日から令和4年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、静岡県

【従事者人員】2人

【対象】一般